

SDGsと日野の戦略・取り組み

日野のトラック・バス事業は、社会インフラとしての物流や人流を支えるという意味で、非常に公益性の高い事業です。昨今、人流・物流においては重大交通事故やCO₂問題、ドライバー不足などのさまざまなお客様・社会の課題が顕在化しています。これらの課題の解決は私たちが『Challenge2025』や『日野環境チャレンジ2050』といった戦略で達成すべき目標であり、SDGsが目指している方向性とも一致しています。

ここではSDGsの課題について、今世界でどのようなことが起き、日野がどのような目標・取り組みで貢献するのか、具体的にご紹介いたします。

SDGsへの貢献を通じて日野が目指す姿

1 安心・安全で、環境にやさしく、人と物が、自由に最適に移動できる社会の実現
 交通死亡事故ゼロ、CO₂排出量の大幅削減、人流物流のさらなる効率化によって、「豊かで住みよい持続可能な社会」実現を目指します。
 詳しくは P.26

2 トラック・バス事業における各ステップで、環境負荷最小化
 トラック・バスが地球に与える環境負荷を極限まで低減する取り組み『日野環境チャレンジ2050』で、地球温暖化防止、資源循環、生物多様性保全などに貢献します。
 詳しくは P.28

3 同じ志を持った仲間づくり (あらゆる力を結集した社会課題解決)
 日野グループだけにとどまらず、同じ志を持つ企業とパートナーになり、社会課題解決に取り組みます。
 詳しくは P.30

4 サステナブルなバリューチェーンの構築
 裾野の広いトラック・バスのバリューチェーンにおいて、社会・環境に与える影響を低減することで、環境負荷の少ない持続可能な社会の実現に貢献します。
 詳しくは P.31

5 ダイバーシティ&インクルージョン
 グローバルな事業を展開する日野にとって、ダイバーシティ&インクルージョンは人財戦略の基本となる考え方です。
 詳しくは P.32

6 人流・物流を支える人財を育てる
 慢性的な整備士不足という課題に対して、お客様車両の稼働を止めないよう整備士の育成・充実に取り組みます。
 詳しくは P.33

持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年9月に国連持続可能な開発サミットにて採択された、2030年までに人類が達成すべき**17の目標(GOALS)**と**169のターゲット**です。SDGsは全世界共通の目標として「誰一人取り残さない」世界を実現しようとする壮大なチャレンジであり、国はもちろん企業にも積極的な関与が求められています。

169のターゲット
 SDGsの各目標には具体的な達成基準(ターゲット)が設定されており、計169のターゲットから構成されています。
 SDGsについてはこちら(国連広報センター)

4 サステナブルなバリューチェーンの構築
 裾野の広いトラック・バスのバリューチェーンにおいて、社会・環境に与える影響を低減することで、環境負荷の少ない持続可能な社会の実現に貢献します。
 詳しくは P.31

5 ダイバーシティ&インクルージョン
 グローバルな事業を展開する日野にとって、ダイバーシティ&インクルージョンは人財戦略の基本となる考え方です。
 詳しくは P.32

6 人流・物流を支える人財を育てる
 慢性的な整備士不足という課題に対して、お客様車両の稼働を止めないよう整備士の育成・充実に取り組みます。
 詳しくは P.33

SDGsのターゲット × 日野が取り組む社会課題

特に注力するSDGsのターゲットと、事業を通じて貢献できること、戦略・取り組み事例を紹介します。

1 安心・安全で、環境にやさしく、人と物が、自由に最適に移動できる社会の実現

3 すべての人に健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

ターゲット

3.6 世界の道路交通事故による死傷者半減。(2020年まで)

3.9 有害化学物質、大気、水質、土壌汚染による死亡/疾病の件数を大幅減少。(2030年まで)



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

ターゲット

9.4 資源利用効率の向上とクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取り組みを行う。(2030年まで)



11 住み続けられるまちづくりを



都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

ターゲット

11.2 脆弱な立場にある人々/女性/子供/障害者/高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。(2030年まで)



12 つくる責任 つかう責任



持続可能な消費と生産のパターンを確保する

ターゲット

12.4 合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。(2020年まで)



日野が取り組む社会課題

重大交通事故

トラックは大きく重く、バスは多くの命を預かっている。ひとたび事故が起れば、大きな事故となる。

ドライバー不足

物流業界における積載効率低下
e-コマースの拡大に伴うドライバー不足や少量多品種の品揃えによる積載効率の低下。

新興国のさらなる発展

特にASEANを中心に、経済成長や交通インフラ整備に伴う商用車需要がより一層高まり、スピード感のある商品提供が求められている。



地球温暖化

CO₂排出量の削減が全世界・全産業共通の課題。

輸送効率の悪化

少量多品種の品ぞろえによる効率の悪化。

移動困難者の増加

高齢化社会などの影響により、過疎地を中心に移動困難者が増加。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

日野では、「交通事故のない安心・安全な社会」、「人や物の移動による環境負荷の少ない社会」、そして「人や物が自由に最適に移動できる社会」の実現を目指し、『Challenge2025』でお客様・社会への価値提供として①日野車による「交通死亡事故ゼロ」、②「CO₂排出量の大幅削減」、③「お客様ビジネスの発展支援」、④「人流・物流の更なる効率化」の4つを掲げ、3つの方向性の取り組みで複合的な解決にチャレンジしています。(3つの方向性について [詳しくは P.18](#))

具体的な取り組み

電動車両の開発(EVバス開発)

2012年、東京都墨田区と羽村市に日本の商用車メーカーとして初めて、路線用のEVバスを納車した実績があります。『日野環境チャレンジ2050』では「新車CO₂:2013年比90%削減」を掲げ、電動車両の開発を進めています。



日野ポンチョEV

社会課題解決に向けた新しい技術開発(隊列走行)

ドライバー不足などの社会課題への対策として、行政と連携しつつ、隊列走行の実証実験に取り組んでいます。今後実用化に向け、ますます技術開発を加速させていきます。



[隊列走行についてはこちら](#)

2 トラック・バス事業における各ステップで、環境負荷最小化

13 気候変動に具体的な対策を



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

ターゲット 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



全ての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

ターゲット 7.2 世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅拡大する。(2030年まで)
7.3 世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。(2030年まで)



6 安全な水とトイレを世界中に



すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

ターゲット 6.3 汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。(2030年まで)



14 海の豊かさを守ろう



海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

ターゲット 14.1 海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。(2025年まで)



15 陸の豊かさを守ろう



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

ターゲット 15.2 あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林および再植林を大幅に増加させる。(2020年まで)



日野が取り組む社会課題

地球温暖化

異常気象の頻発など地球温暖化の深刻化は世界中でさまざまな影響を与えており、CO₂排出量の削減が全世界・全産業共通の課題。

生物多様性の危機

●生態系の縮小(例:砂漠化、湖沼の枯渇)
●動植物の絶滅加速(7分間に1種のスปีドで、動植物が絶滅)。



水環境問題の深刻化

●量: 水不足
新興国、資源国を中心に、慢性的な水不足が発生(今後の人口増でさらなる拡大見込み)。
●質: 安全・安心な水の利用
世界人口の20%にあたる約12億人が、安全・安心な水環境を利用できていない。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

グローバル商用車メーカーとして、CO₂排出量徹底削減や水環境保全、生物多様性保全にわたる各種環境の取り組みにより、生産、製品走行のみならず、物流、リサイクル段階に至る製品ライフサイクルの各ステップにおいて、環境負荷の最小化を目指し、『日野環境チャレンジ2050』を掲げています。日野はそれらの取り組みを通じて、持続可能な社会を実現し、豊かで住みよい世界と未来づくりに貢献します。

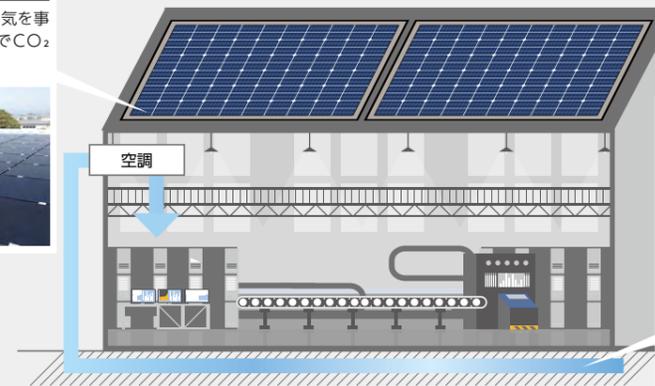
具体的な取り組み

自然エネルギーを活用した環境にやさしい工場づくり

日野は「工場CO₂ゼロ」を目指し、トラック・バス製造におけるCO₂排出量削減に取り組んでいます。近年では、国内外の各工場でも自然エネルギーを積極的に活用し、CO₂排出量を徹底的に削減した工場づくりを進めています。

太陽光の活用

太陽光パネルで得た電気を事業所で活用することでCO₂排出量を削減



地中熱の活用

年間を通じてほぼ一定の温度を保つ地中熱を利用し、冷暖房使用によるCO₂排出量を削減



3 同じ志を持った仲間づくり (あらゆる力を結集した社会課題解決)



17 パートナーシップで目標を達成しよう



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化



ターゲット 17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術および資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

日野が取り組む社会課題

地球環境問題

地球温暖化など多くの課題が顕在化。

社会課題の顕在化

(人流・物流の世界においても)重大事故やCO₂問題、人手不足などの課題が山積。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

左記を含む『Challenge2025』の課題を解決するためには、自社の力だけでなく、「仲間づくり」を通じてあらゆる力を結集しなければなりません。日野はトヨタグループでの協業を柱にしつつも、同じ志を持った「仲間づくり」を積極的に進めて協業のシナジー効果を最大限に活用し、「豊かで住みよい持続可能な社会」の実現を目指して取り組んでいます。

具体的な取り組み

お客様・社会課題解決の加速に向けた他社とのアライアンス

深刻化・多様化するお客様・社会課題の対応をスピーディーに進めるため、CASEなどの先進技術領域を中心に、3つの方向性の各分野で「仲間づくり」を進め、技術開発を加速させます。



4 サステナブルなバリューチェーンの構築



12 つくる責任 つかう責任



持続可能な消費と生産のパターンを確保する



ターゲット 12.4 合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。(2020年まで)

日野が取り組む社会課題

資源枯渇・廃棄物問題

グローバル規模で資源枯渇リスクは高まっており、大量消費社会の副産物である廃棄物も年々増加。

バリューチェーンにおける人権・労働問題

バリューチェーンにおける強制労働、低賃金労働などの労働者の人権侵害が散発。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

部品をつくる段階から、車両製造、お客様による使用、廃棄に至る製品のライフサイクルを通じて、環境負荷を低減するだけでなく、サプライチェーンにおける人権を侵害するような労働を排除し、豊かで住みよい世界と未来を次の世代につなぎます。

具体的な取り組み

持続可能な生産・販売につながる環境取り組み

今後もトラック・バスを持続的に生産・販売し続けるためにも、日野のバリューチェーンに関わる仕入先・その他取引先様には日野の取り組みについてご理解・ご協力いただき、共に価値を提供し続ける必要があります。

特に仕入先の皆さまには、「仕入先CSRガイドライン」、「グリーン調達ガイドライン」等に基づき、さまざまな環境の取り組みを推進していただいています。



🔗 [「仕入先CSRガイドライン」はこちら](#)

🔗 [「グリーン調達ガイドライン」はこちら](#)

5 ダイバーシティ&インクルージョン



5 ジェンダー平等を
実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る

ターゲット

5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

8 働きがいも経済成長も

全ての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する

ターゲット

8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

10 人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の格差を是正する

ターゲット

10.2 年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化および社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。(2030年まで)

日野が取り組む社会課題

人権に関する課題
人種・宗教、信条などさまざまな「ちがいが」から差別が生まれ、地域間・国家間の紛争に発展している。

働き方に関する課題
●企業の外国人、障がい者の雇用は年々増加しており、充実した環境づくり、教育制度などが求められている。
●共働き世帯は増加傾向にあり、男女分け隔てなく育児参加できる環境づくりが求められている。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

グローバル市場で日野が持続的成長を続けるため、多様な人財が活躍できる組織づくりが不可欠です。多様化するお客様や社会のニーズに応える商品・サービスを提供するためにも、「ちがいが」とらわれず、社員一人ひとりの能力を存分に発揮できる風土づくりに取り組みます。

具体的な取り組み

多様な人財、一人ひとりの活躍を支える取り組み

グローバルでの人財教育	障がい者活躍支援	育児支援
海外⇒日本赴任による育成(企業内転勤制度)	個人の能力を活かしたオフィスサポート業務(日野ハーモニー)	企業内保育所(トントンキッズ)
日本⇒海外赴任による育成(海外トレーニー制度)		

日野ハーモニーについてはこちら

6 人流・物流を支える人財を育てる



4 質の高い教育をみんなに

全ての人が包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ターゲット **4.3** 全ての人が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育および大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。(2030年まで)

日野が取り組む社会課題

社会基盤を支える人材の育成

- 世界各地で人流・物流に関するさまざまな社会課題・環境課題が顕在化している。
- 国内の約5割の整備事業場で整備士が不足(日整連自動車整備白書 平成29年度版)。
- 自動車整備士を目指す若者が激減する一方、整備要員の高齢化にも直面。

課題解決に向けた戦略、取り組みの方向性

トラック・バスは社会基盤を支えるインフラであり、それらの稼働が止まることがないように常に高品質で迅速な整備を提供することが求められています。お客様に高品質かつ迅速な整備を提供するとともに、企業内訓練校である日野工業高等学園で、将来的に必要とされる技術にも対応できる人財育成に注力していきます。

具体的な取り組み

将来の人流・物流を見据えた人財育成

日野は、商用車メーカーとして自社製品の開発はもちろんのこと、社会全体の持続可能な人流・物流構築に貢献し続けます。そのため、将来の人流・物流課題に挑む人財の育成を目指し、日本、グアテマラをはじめ、世界各国で人づくりに力を入れ、取り組んでいます。また2019年9月には、フィリピンにも「テクニカルサポートアンドトレーニングセンター」を開所、今後さらなるサポート強化を図っていきます。

日本	フィリピン	グアテマラ
<p>日野工業高等学園の人財育成</p>	<p>新車・保有台数増に伴うサポート強化を目指しメカニックを育成していく(テクニカルサポートアンドトレーニングセンター)</p>	<p>現地事業体のみならず、地域全体のサービス技術向上に貢献する企業内訓練校(Institute Tecnico HINO)</p>

日野工業高等学園についてはこちら